

商店建築

5

SHOTENKENCHIKU MONTHLY MAGAZINE OF STORE DESIGN / INTERIOR / ARCHITECTURE 2015 Vol.60 No.05

New Shop & Environment

TSUNOHAZU BLUE BOTTLE COFFEE

Special Feature

3Dテクノロジーに見る
新たなクリエイション

Feature Article 1

Boutique & Pop-up Store

Feature Article 2

Clinic

GLOBAL ×
CREATIVE ×
LUXURY
with GARDE
vol.2

既成概念にとらわれない、建築とインテリアの融合というスタイル

GARDEシニアディレクター・石川渡氏に聞く

国内外の商業施設、ラグジュアリーブランドのショップデザインを手掛けるギャルド ユウ・エス・ビイ。このシリーズでは、同社のデザイナーとプロジェクトにスポットを当て、ギャルドのデザインフィロソフィーを探っていく。今回は、建築設計からキャリアをスタートした、石川渡氏に話を聞いた。



生活環境、社会的背景のもとで、ダイナミックに空間をとらえる姿勢と、ヒューマンスケールを基にした繊細なインテリアを重視し、そこに日本とイタリアで得た経験、それぞれの優れたところを取り入れることにより独自の世界観を創造し続けたい」と語る。

氏のデザインインスピレーションの根源は、日本とイタリアで積み重ねてきた建築にあり、仕事や生活のすべては、審美眼を鍛えるベースとなっている。「美しい建築を目にする」と語ると語る石川氏は、写真家や画家、アーティストらが見な建築学に精通した感覚を持ち合わせるヨーロッパに暮らしたことも、自身の美意識に多大な影響があったという。実務でのデザインスタイルにおいては、こう語る。「今の世の中は情報に溢れています。その情報や経験によって、いつの間にか越えてはいけない壁を勝手につくってしまい、デザインの幅を狭めてしまうことがある。私は、商業空間をデザインする時に、「インテリア」と「建築」を一つとして捉え、あらゆる側面からの審美眼を駆使してデザインを提案します。一つの都市や建物を計画するのと同じように、大きな空間意識を重要視し、視覚的にダイナミックな素材感、また、感覚的には、どこかで経験したことがあるように、実は経験したことのないサプライズのある風景をつくり出す。それが私のデザインスタイルです」。

そうしたデザインフィロソフィー、設計の



左/ 韓国・ソウルにオープンした「DOOTA」。“In The Cave”同様にイメージした環境デザイン
左中・下/ デザインの際に参照した自然環境のイメージ写真と他フロアの環境デザイン
上/ 下から、木漏れ日をイメージした他フロアの環境デザインと参照した自然環境のイメージ写真

現在、同社のシニアディレクターを務める石川氏は、大学卒業後、設計事務所勤務を経てイタリアに戻り、フィレンツェ大学建築学部で1年間学んだ経歴を持つ。その後、磯崎新氏に師事し、磯崎新アトリエにてトリノオリンピックでのアイスホッケースタジアムの設計に携わる。そして、イタリア人建築家とともにトスカナ州のシエナで教会やレストランの設計を行った後、2005年にギャルド入社。以後、大型商業施設の環境ディレクションおよびデザインを数多く手掛けてきた。自身のデザインフィロソフィーについては「日本のショップデザインで散見される、建築とインテリアが切り離された分業的なデザインには常々違和感を感じていました。私は、建築とインテリアの中間的な立ち位置でデザインに取り組みたい。絶えず変化する都市での



タイが、クライアントに認められ、求められる根拠にあるという。独自のスタイルが現れたプロジェクトの一つが、2014年10月に韓国・ソウルにオープンした商業施設「DOOTA（ドゥータ）」である。「クライアントからの最初の要望は「今までにない商業施設」でした。この施設のエリアは、感度の高い若者が集まるエリアとして有名で、弊社は独自のマーケット調査を実施しました。その結果、まだ知名度の低い若手ファッションデザイナーのショップを積極的に誘致し、ここから世の中に興立っていく登竜門のような施設。ここに來れば旬なファッションと出合える施設にしていこうという企画をクライアントと共有しました。地下2階から、地上6階までの8階に多様なショップが入り、それぞれのエリアでMDは異なります。そこで、エリア毎に全く異なる世界をつくりなかと

考えました。私は、「ANOTHER WORLD」というコンセプトを掲げ、これまでの経験、生活に基づくデザインを進めていきました」風景やテーマを空間に表現する時は、もとのカタチやイメージを忠実に感じられるようデザインするという石川氏は、自然の風景などをアイデアソースとして空間化していくという。「今回は、既存建物内のプロジェクトでしたが、部分的ではなく、空間全体を大胆に捉えたデザインを心掛けました。クライアントが商業空間やブランドに込める「核」を的確にとらえた上に、私自身の審美眼、インスピレーションを背景に、ダイナミックな表現。さらに圧倒的な素材感によって「サプライズ」が連続する空間を実現することができました」と振り返る。

今後も、デザインの背景となる哲学や、生活の中で磨かれた審美眼から生み出されるデザ

イン性を追い求め、高い次元での「建築とインテリアの融合」に挑戦していきたいと語ってくれた。「ギャルドは、個性溢れるデザイナー集団で、デザインを通じて世界の人々に「感動、喜び、夢」を提供できる集団でありたい。その中で私はオリジナリティーを発揮し、空間デザインを通じて世界に対して強く発信していきたい」

いしむわ・れたる、ギャルド ユウ・エス・ビイ シニアディレクター 兼 韓国デザイン事業部長、一級建築士、1998年東海大学工学部建築学科、2001年イタリア・フィレンツェ大学建築学部にて留学、磯崎新アトリエなどをを経て、2005年入社、主幹仕事に「ミラノショップ編組」「アトリエ監理」「コロド日本館」「バーコースニューヨーク」【Doota(ソウル)】など。

【お問い合わせ】
ギャルドユウ・エス・ビイTEL: (03) 3407-0007